

平成19年10月31日

## ダム守同心情報連絡票(第17号)

この情報連絡票は、灰塚ダムのダム守同心の方々並びに関係者の皆様に三次河川国道事務所灰塚ダム管理支所から灰塚ダム及びハイヅカ湖に関する情報をお届けするものです。

### 1. ハイヅカ湖観光フォトコンテストの作品募集が開始されました。

前号でお知らせしました「フォトコンテスト」の募集が開始されました。ハイヅカ湖周辺のすばらしさを広く知ってもらえる様に、他地域へも情報発信していきたいと思っております。

また、環境調査などで得た情報などを活かして撮影スポットに関する情報発信、フレンチ館での撮影のアドバイスなども検討しています。

詳細は同封のチラシをご覧ください。

### 2. ウェットランド情報

10月28日に安田ふれあい秋の集いの一環として「歩け歩けウェットランド」が開催されました。ぽかぽかとした散策日和の中安田小学校からウェットランドまでの間を散策し、フレンチ館で休憩、野鳥観察などをしていただきました。

花のまわりを舞うチョウチョや水面を気持ちよさそうに泳ぐヒドリガモなど参加者のみなさんを迎えてくれました。

また、笑顔で、元気にあいさつや会話をし、周りにある自然で遊ぶ安田っ子の姿がより爽快さを高めたように思います。

フレンチ館は初めてという大人の方も多くいらっしゃいました。「駐車場から遠く感じる」、「何が見学できるのかが道端からでは分からない」、「ウェットランドの水辺も散策しなかった」などいろいろなご意見も聞かせていただくことができました。

より多くの方々に喜んでいただけるよう掲示板の設置なども検討していきたいと思っております。

秋の集いの会場もイノシシ鍋やゲタ飛ばし大会などなど、いろいろなおいしさと笑顔であふれていました。



### 3. 『ハイヅカ湖健康ウォーク2007』開催に合わせてダム見学会を行いました。

第16号の連絡票でもお知らせしました通り、10月28日(日)に「ハイヅカ湖健康ウォーク2007」がハイヅカ湖周辺で開催されました。灰塚ダム下流の記念公園をスタートしてハイヅカ湖畔の森、才の峠広場、灰塚大橋などを経て記念公園をゴールとする8kmのルートに約130の方が参加されました。

当日は雲ひとつない澄みきった秋晴れのもと、参加者の皆さんはハイヅカ湖を囲む山々の紅葉(こうよう)や湖の風景を満喫しながら各々のペースで歩を進められていました。

ウォーク開催に合わせて灰塚ダムでは見学会を行い約20名の方に参加いただきました。普段立ち入ることのできないダム堤体内部のゲート操作室や発電所、通廊にご案内しました。ダムの大きさや内部の設備に驚かれるとともに、ウォークでひと汗かいた後ということもあって「涼しかった」という感想もありました。



### 4. 「船、山に登る」が上映されます。

船をつくるはなし、えみきじいさんの移植などが美しい音楽とともに記録された映画「船、山に登る」が広島、岡山で上映が予定されています。

**11月24日(土)より広島市 横川シネマにてモーニングショー**

11月24日(土)～12月7日(金)

日時 午前10:30～(1日1回上映)

※初日24日は本田監督の舞台挨拶あり

お問合せ 横川シネマ TEL:082-231-1001

<http://ww41.tiki.ne.jp/~cinema-st/top.html>

## 第45回岡山市芸術祭 岡山映画祭2007にて上映

日時 11月25日(日)  
10:30~上映 13:00~監督トーク/ゲスト・真部剛一  
15:00~上映

場所 [岡山市立オリент美術館](#)

岡山映画祭事務局 TEL/FAX 086-254-0238(ナカチ)

お問合せ・TEL 予約 E-mail: [boken@mx1.tiki.ne.jp](mailto:boken@mx1.tiki.ne.jp)  
<http://ww1.tiki.ne.jp/~boken/fes.html>

---

### 船、山にのぼる(2007年/97分)本田孝義監督作品

1965年、広島県旧三良坂町、吉舎町(現三次市)、総領町(現庄原市)にまたがる灰塚で持ち上がったダム建設計画。以後、15年以上にわたって反対運動が続いたが、1984年に建設受け入れ、1993年からは水没予定地の住民の生活再建地(その一つが“のぞみが丘”)への移転が始まった。



1984年に発足して以降、「棲む」というキーワードで「家具」「家」「都市」といった既成の枠組みの解体と再読をテーマに活動してきた美術家と写真家と建築家からなるアートユニット・PHスタジオは、1994年に始まった【灰塚アースワークプロジェクト】の中で、ダム工事に伴い20~30万本の木が伐採され森林が水没するという話を踏まえた、森の引越しプロジェクト「船をつくる話」を発表する。具体的には、伐採される木を使って、全長60メートルの巨大な筏状の船を作り、ダム完成時に行われる試験湛水(最高位まで貯水する)とその後の水位低下を利用して、船を移動させ、山の頂上にのせる、という壮大な計画であった。このアート・プロジェクトを、半信半疑に受けとめていたのぞみが丘の人々だったが、PHスタジオの人々の地道な活動を見聞きするうちに、計画の実現を信ずるようになっていく……。

前作『ニュータウン物語』で、自らの故郷である岡山県の団地にカメラを向けた本田孝義監督が、コミュニティーを見つめたその視点を、さらに進化・深化させ、「ダムを作る」ことによって何が起きるかをアートを通じて可視化させたPHスタジオと、「故郷が水没する」という圧倒的なマイナス状況の中で彼らを後押しする地域の人々の姿から、コミュニティーや環境に対してアートに何ができるのかを描き出している。

---

## 5. 水質事故対策訓練を行います

気温も下がり、油流出などが発生しやすい季節となってきました。

江の川では、油流出など万が一の水質事故に備えて水質事故対策講習会が例年開催されています。

今年も三次市十日市の馬洗川で訓練等が11月14日に実施されます。

灰塚ダム管理支所もこの講習会に参加し、迅速な対応ができる体制の維持に努めます。

## 5. 本号の最後に

水源地域ビジョンの策定などについて地域のみなさんからいろいろとご意見を頂戴しています。

改善すべき点は改善しながら、前向きに取り組んでまいりたいと思います。

全国学力テストの結果が文科省から発表されましたが、新聞、テレビなどをみて、いろいろなとらえ方があるものだとあらためて感じました。

親子にからむ悲しい事件をニュースなどでみかけるようになりましたが、笑顔でいる時間、感動している時間、感謝している時間、自発的な活動をしている時間、親子で楽しくすごしている時間などをとりまとめたらどのようになるのでしょうか

また、自給率の低下や高齢化などが騒がれている一次産業や福祉についてもダム環境と関係が深いと感じています。

ハイヅカ湖がどのように活かせるのか、いろいろな視点から地域の皆様と共に考えていきたいと思っています。

◇ 問い合わせ等連絡先 ◇

国土交通省 三次河川国道事務所 灰塚ダム管理支所

支所長 今岡 俊和 (imaoka-t87mb@cgr.mlit.go.jp)

事務係長 片山 直行

〒729-4302 広島県三次市三良坂町仁賀1575

電話:0824-44-4360(代) FAX:0824-44-3544